



1960年



1960年代



1970年代



2022年



1950年代

硫黄島

へぎ地診療所

交通や自然などの条件から医療が確保できない地域に設けられる「へぎ地診療所」という医療機関がある。三島村も四地区に備え、医師を派遣している。

硫黄島の診療所は、まだ進駐軍がいた一九四九（昭和二十四）年に『社会保険十島村診療所』として始まる。そして日本が主権を回復し、三島村が誕生した一九五二（昭和二十七年）年に『三島村立硫黄島診療所』となる。村唯一の診療所で、医者が一人ずつ交替で勤め、その他に日赤が年に一度巡回診療した。

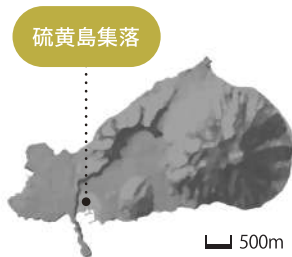
その後、一九五八（昭和三十三年）に『黒島へぎ地診療所』が、一九六三（昭和三十八）年に『硫黄島へぎ地診療所』が開設される。熊野神社横に診察室、手術室、X線室、入院室を備えた建物ができたABC。医師と看護師が常について竹島から来て盲腸を手術する人もいたという。色々な設備は後に交通が発達して使わなくなった。

一九五八（昭和三十三年）年から診療所に勤めた看護師さんによれば、最初は炭火で煮沸消毒、蒸し器でガーゼの消毒をしたという。また、中核病院である日赤に小児科や産婦人科がないので、電話帳で鹿児島島の病院を探して医師の指示を仰いだことも。定年退職した一九九八（平成十年）年まで看護師は一人で二十四時間体制だった。その後、二〇一九（平成三十一／令和元）年に看護師二人体制が開始した。

思い出話

「看護学校で『島に一人ずつ看護師を』と誘われて手を挙げました。そのことで取材されると全国からファンレターが来て驚きました。」

硫黄島地区八〇代女性



硫黄島集落

3